

令和6年度 田村市立船引中学校 学校評価報告書							
教育目標		【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力すべき					
中期経営目標		短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
学びプロジェクト	○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した校内研修の充実を図る。	① ⑥⑦⑧を大切にした「わかる・できるが実感できる授業」の実践を行う。	学習した内容を活用させ、思考の過程を表現する場を設定し、「学びの価値が実感できる表現活動」が充実するように取り組んできた。それにより、主体的・対話的で深い学びの実現につなげた。取組をまとめた論文で田村地区教職員研究物展で特選を受賞した。	B	学力向上に関する教員の取組が評価され教職員論文の特選につながった。今後も取組を継続するとともに、勉強が得意な生徒が苦手な生徒に合わせるのではなく、どんどん伸ばす環境が必要である。	A	学びの価値を実感できる授業を継続しつつ、勉強が得意な生徒の伸長を図る。発展的課題や探究学習の機会を増やし、異学年交流や外部コンテストへの挑戦を推奨することで、多様な学びの場を提供し、個々の能力を最大限に伸ばす。
	○ 「学びに向かう力」の育成を目指し、家庭学習の充実を図る。	② スケジュール手帳の活用により学習サイクルを確立し、家庭学習の充実を図る指導を徹底して行う。	生徒、保護者ともに評価が低い項目であったが、生徒は学年が上がるにつれ評価が高くなった。次年度は活用方法を年度始めに指導し、自己マネジメント力の育成のために継続したスケジュール手帳の活用と効果的な活用方法を重点的に指導していく必要がある。	C	自己マネジメントできる生徒の育成は重要である。社会人となっても生きて働く力であり、義務教育段階から身に付けるべき能力である。さらに手帳の活用について教員の研修を行い、効果的な使い方を生徒に指導してほしい。	C	スケジュール手帳の活用を年度初めに重点指導し、学年ごとに段階的な活用法を確立する。教員研修を実施し、効果的な指導法を共有する。生徒の自己マネジメント力を高めるため、振り返りの機会を設け、継続的な習慣化を促す。
	○ 読書活動・読書指導の充実を図る。	③ 毎日の「朝読タイム」の充実と「家読」の習慣化を図る。	保護者の評価が低い項目であった。家庭で読書の機会が少ないと感じている。学校では朝読タイムやビブリオバトル、図書委員会からのお便り発行により読書活動を推奨している。授業等で図書館をさらに活用し、家庭でのメディア利用の指導と合わせ、読書の習慣化を図る支援をしていきたい。	C	生徒はスマホ等の端末から情報を得ているので、家で読書する習慣のある者は少ない。読書に親しむことで語彙を増やし、情操も豊かになると考える。朝読の継続と読書を推奨し、参観で親子読書なども取り入れることも方法の1つである。	B	朝読を継続し、授業での図書館活用を強化する。家庭での読書習慣を促すため、親子読書イベントや読書記録を活用し、保護者と連携を深める。スマホなどのメディア利用とのバランスを指導し、語彙力向上と豊かな情操を育む環境を整える。
心プロジェクト	○ 生徒一人一人を大切にし、将来への自己実現を支援する。	④ 目標や希望の実現に向けた取り組みをしている。（プラス1の取組）	夢や目標の実現に向けて、日常的に努力を重ねる指導を教育活動全体で行う必要がある。キャリア教育の充実を図る中で自己の生き方を考え、自己実現できる具体的な取組（プラス1の取組）について継続的に指導していきたい。	B	プラス1の取組で励んでいる生徒が多い印象である。職場訪問等で自己に生き方や職業について考えさせることは大切であり、早い段階から取り組むのがよい。学校の外で学ばせることで心も育つと考えるので、キャリア教育をぜひ充実させてほしい。	A	プラス1の取組を継続し、キャリア教育をさらに充実させる。職場訪問や地域との連携を強化し、実際の社会経験を通じて自己の生き方を考える機会を増やす。早い段階から目標設定や振り返りを行い、主体的に努力できる力を育成する。
	○ 体験活動やボランティア活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育成する。	⑤ 自己有用感を感じさせるとともに、望ましい人間関係を醸成する学級づくりの充実を図る。	学級満足度調査（Q-U検査）を活用し、学級の実態に即した指導を学級活動や学校行事を行っている。人間関係をうまく構築できない生徒はSSRで学習し、学びの場を保障している。	B	SSRを積極的に活用しており、取組が充実している。また、学級での生活に困難さを感じている生徒でSSRで学びたいと感じている者が利用しやすいとよい。教員の日常的な関わりや教育相談を通して、生徒が安心して過ごせる学校であってほしい。	A	学級満足度調査を活用し、学級活動や行事を通じて自己有用感を高める取組を継続する。SSRの活用をさらに充実させ、利用しやすい環境を整備する。個々の状況に応じた支援を強化し、教室への復帰を目指すとともに安心して学べる学級づくりを推進する。
	○ 生徒会活動の充実を図り、生徒の自主性や主体性を育てる。	⑥ 道徳科の授業や学校生活の中で生命の尊重、思いやりの心、協力する態度の育成を目指す。	学校全体で学年毎のローテーション道徳が定着してきたことや多様な指導形態により、教員の授業力の高まりが見られている。それにより、生徒が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に物事をとらえ、人間としての生き方について考えを深める学習が展開されている。	A	大きな災害や戦争がある中、日常的に教員が話題として取り上げることで生徒の心に響くのではないかと考える。高齢者や幼児などさまざまな立場の方と触れ合うことで心が育つのではないかと考える。また、希望者を募って高齢福祉施設等でボランティアに取り組むことも心を育むことができるのではないかと考える。	A	ローテーション道徳を継続し、多様な指導形態を活用する。災害や社会問題を日常的に取り上げ、生徒の思考を深める機会を増やす。高齢者や幼児との交流活動を推進するとともに、ボランティア活動への参加意欲を醸成する。
		⑦ 生徒会活動（あいさつ運動等）に主体的に取り組ませ、奉仕の精神や協力し合うことの大切さを実感させる。	生徒会が中心となり、継続して朝のあいさつ運動を実施したている。また、「いつでも、どこでも、何度でも」をスローガンに掲げ、あいさつの指導に取り組んでいる学年もある。保護者の後期の評価に高まりが見られ、取組の成果が少しずつ現れてきた。	B	あいさつには個人差が見られる。小学生の時から地域で大人と出会う機会が以前に比べ減っている。発達段階によってははずかしいと感じる生徒もいる。いろいろな年代、立場の人とつながりを増やしていく取組も必要なのではないかと考える。	A	生徒会活動を継続し、あいさつ運動をさらに活性化する。地域との交流機会を増やし、異なる年代や立場の人々と接する場を提供する。発達段階に応じた指導を工夫し、あいさつの大切さを実感できる活動を通じて、奉仕の精神や協力の意識を育む。
	体プロジェクト	○ 将来への自己実現を支える体を育てる。	⑧ 食育、生活習慣づくり、性教育、薬物乱用防止教育等を行い、健康・安全教育の推進を図る。	外部の専門家を講師として招聘し、思春期保健教室、薬物乱用教室、歯科保健教室を開催し、健康・安全教育の充実に努めた。県教委発行の「自分手帳」をさらに積極的に活用することで、生徒自身が健康で安全な生活を営むことができるように指導が必要と考える。	A	専門家の先生から話を聞いていることは大変よく生徒のためになる。今後更に目、耳、歯の健康について考える機会をもう少し増やすとともに良い。スマホやタブレット、イヤホンの影響について自分事として理解できる場があるとよい。	A
○ 部活動の活性化と対外的なスポーツ大会への積極的な参加を奨励する。		⑨ 部活動への主体的な活動姿勢の醸成を図り、市の体育的行事への積極的な参加を推奨する。	部活動担当教員を中心に各部活動顧問の協力体制を構築し、東北、全国大会出場を果たした部活動もあった。また、基礎体力づくりのため、朝練習に参加し、なわとびコンテストに参加した。市主催のロードレースにも多くの生徒が参加した。	A	部活動を通して、人間力、忍耐力を高め、チームワークを学ぶ。さらに、活動では競技力の向上に加え、先輩後輩等の人間関係も学ぶ。社会に出てから通用する礼儀なども学ぶ場としてほしい。	A	部活動を通じて競技力の向上だけでなく、人間力や忍耐力、礼儀を学ぶ場とする。顧問間の協力体制を強化し、先輩後輩の関係を大切にする指導を充実させる。市の体育行事への積極的な参加を継続し、基礎体力向上にも取り組む。
信頼される学校	○ 保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	⑩ 生徒にとって、安全・安心な学校づくりに努める。	毎日の安全管理を全教職員で実施し、危険箇所の修繕や改修をその都度行うことで安全・安心な学校づくりに努めた。生徒、教員共に後期の高まりが見られた。また、熱中症対策として、酷暑期間に運動着で登下校するようにして、生徒が安全に過ごせるようにした。	B	メール配信システムを使用して、保護者に必要な情報を提供している。今後も継続してほしい。更に通学路の危険箇所等についても把握に努め、注意喚起の情報提供を行っていただきたい。トイレが汚いので、早めに修繕してほしい。	A	安全管理を継続し、危険箇所の修繕を迅速に行う。通学路の危険箇所を把握し、注意喚起を徹底する。メール配信システムを活用し、保護者との情報共有を強化。トイレの環境改善を早急に進め、生徒が快適に過ごせる学校づくりを推進する。
		⑪ 学級担任、養護教諭、SSR専任教員、スクールカウンセラー、心の教室相談員等と連携し、組織的に生徒の指導や支援にあたる。	SSRでの継続的な指導、支援から教室に復帰した生徒がいる。SSRで学習している生徒でも昨年度に比べ登校日数が増え、オンラインで授業に参加し、学校行事にも参加できた。また、生徒指導上の問題には、組織的に対応している。	B	リアルタイムで授業をオンラインで配信することで生徒が学ぶことができている。SSRは人数に対して場所が小さいことが課題としてあげられるが、一人一人の生徒を大切にして取り組んでいる様子が窺える。今後もSC、SSW等さまざまな立場の職員を活用して生徒のために取り組んでほしい。	A	SSRの環境整備を進め、学ぶ場の確保を図る。オンライン授業の配信を継続し、学校行事への参加機会を増やす。SCやSSWとの連携を強化し、個々の生徒に寄り添った支援を充実させる。組織的な対応を継続し、生徒が安心して学べる環境を整える。
教職公務員として	○ 生徒・保護者・地域の信頼のため、不祥事根絶に努める。	⑫ 教育公務員として、絶対に不祥事を起こさないように心がける。不祥事根絶のため、職員同士で相談したり、声かけを行ったりして、セーフティネットの構築を図る。	教員の不祥事防止に対する意識は高い。月に1度の服務倫理委員会では、各学年から事例や話題を提供し、全職員が「絶対に職場から不祥事を起こさない」という意識で互いに啓発している。	A	教員もさまざまなストレスがあるのではないかと。時間外勤務が多く心配している。生徒には指導していただけることに感謝する気持ちをもっていただきたい。	A	服務倫理委員会を継続し、不祥事防止の意識をさらに高める。職員同士の相談や声かけを強化し、セーフティネットを充実させる。教員のストレス軽減のため、業務分担の見直しや時間外勤務の削減を進め、働きやすい環境を整える。
		⑬ 生徒のよさを認め、教職員同士が常に協力し合って仕事を進める。	生徒による評価では、教員がよさを認めているとの回答が高くなった。生徒との信頼関係が築かれているものと考ええる。また、運営委員会で話し合われたことを学年会を通して周知し、教員同士の情報交換を確実に行うことで共通理解を図っている。	B	教員は明るく接している。学校の中にいないと分からないこともあるが、学校運営協議会委員が学校行事等で学校教育について理解を深め、学校と連携するようにしていく。	A	生徒のよさを認める関わりを継続し、信頼関係を深める。運営委員会と学年会の連携を強化し、教員同士の情報共有を円滑に進める。職員間の協力体制を維持しつつ、組織的な運営をさらに充実させ、学校全体の一体感を高める。